

## 特別シンポジウム（組織委員会企画）OS06

### 免疫応答制御分子研究の最前線

### Frontiers in Researches of Immune Regulators

西田 圭吾<sup>1</sup>, 松田 正<sup>2</sup>

<sup>1</sup>理研 RCI, <sup>2</sup>北大院薬

本シンポジウムでは免疫応答制御に関与する分子群にフォーカスをあて、その調節機構に関して最新の知見を紹介していただきます。特に日本国内において分子レベルで免疫学研究に取り組んでいる研究者の方々に参加していただき、免疫担当細胞の活性化/抑制機構に関しての最新の知見を参加者の皆様と共有したいと考えております。

具体的には、1) マスト細胞依存的なアレルギー応答における Gab2 分子の活性化機構、2) B 細胞におけるカルシウムシグナル制御機構、3) C 型レクチン受容体を介する免疫調節機構、4) ITAM 受容体シグナル伝達と免疫疾患、5) LIM 分子による Th 細胞分化の負の制御機構、そして最後に、6) 免疫応答における分子イメージングの応用について取り上げます。これら免疫応答を制御する新しい分子群とその機能に関する知見は免疫システムの全体像を明らかにしうる可能性を秘めています。免疫応答の分子制御メカニズムをテーマとした活発な議論を期待いたします。